

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100078		
法人名	社会福祉法人 久栄会		
事業所名	グループホーム さざんか園		
所在地	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町大曲3475-1		
自己評価作成日	平成22年12月30日	評価結果市町村受理日	平成23年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成23年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・デイサービスと小規模多機能とは通路を設けているので、自由に介護者と共に出入りされている。外に出ている方があればデイ職員、小規模職員が気づき、異常があればホームに報告が入る等の共有状況が作られている。
 ・デイサービスの音楽療法、ゲーム等の参加、ボランティア活動の見学、園児との交流、小規模多機能でのカラオケ大会(毎週水曜日)に参加してもらい、利用者の楽しみも多く職員のレベル向上のアイデアをもらってきている。
 ・同部落の利用者さんが4名居られるので家族同士も親密さがあり、一緒に面会に来られ、食事作りを手伝ったり、畑仕事の指導もされたり新年会、夏祭、ふれあい祭り等で利用者と一緒に楽しんでもらっている。
 ・園児との交流、田舎道の散歩、地域の行事参加(クリーンデイ)、収穫は少ないが畑づくり等を自然に実施できる環境である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に恵まれた落ち着いた環境の中に建ち、居室から直接外に出ることができるバルコニーや安全に散歩ができる庭園や畑などグループホームであることを感じさせない工夫が随所に凝らされている。庭には四季折々の草花だけではなく実がなる樹木も植えられていて収穫の喜びを味わうこともできる。グループホームを訪れる家族も多く、家族は施設行事に参加するだけでなく畑作りや夕食の準備などにも参加されていて、家族が足を運びやすい施設運営が行われている。職員、利用者とも地域活動には積極的に取り組まれていて、「地域住民」として地域の方々から認知される存在となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼時に事務所に掲げている理念を唱和し職員全体で共有できるようにしている。また新人職員には理念の説明、確認を行っており、理念を理解するように努めている。	理念は毎朝唱和されていて職員間で共有・確認できる取組みがなされている。介護計画の作成、ヒヤリ・ハットの検討会などにおいては、理念に基づいた対応方法が考えられていて、日々の業務に生かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員全員が地域での買物や散髪など地域との付き合いを心がけている。また自治会での活動の参加や子供クラブとの交流会、施設のイベントには回覧板を回し呼びかけしている。	自治会へは、総会や公民館清掃への参加など、利用者、職員ともに積極的に参加されている。利用者同伴にて近所へ買い物に出かけるなど、地域の一員としての生活の継続が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は地域のクリーンデイ参加や公民館清掃など協力して取り組んでいる。また家族会や認知症介護についての講演も地域に呼びかけ理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回は会議を実施し各事業所の状況報告や地域との関わりの協力を得ている。今回、地域のスピーカー設置や防災訓練での地域消防団出動協力を得られ地域密着への改善が図られている。	運営推進会議では、利用者の日ごろの状況を伝達している。会議の中で取り上げられた地域の防災スピーカーも施設敷地内に設置されるなど、運営推進会議をとおして地域に根ざした活動が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括センターの職員さんが参加されケアサービスの状況把握をされ会議で講演された内容を地域で更に広める取り組みをされている。	地域包括支援センターを窓口とした関係作りができています。認知症に関する研修会などの情報については行政担当者との連携が図られていて、地域での啓発活動に結びついています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行われておらず自室や園外には自由に出入りができるようにしている。また点滴や医療的に拘束を行う場合は事前にドクターや家族に相談、また同意書を得るようにしている。今は該当者なし。	日中は施錠されておらず、自室やバルコニー、敷地内の庭や畑への出入りが自由にできる環境にある。身体拘束をしないケアについては、職員研修を積極的に行い実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全体勉強会での議題にし全員に意識を持たせ共有している。また各事業所で独自のマニュアルを作成し虐待防止への理解や注意を認識している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学んできた知識を復命書や資料を共有している。また全体勉強会でも講義してもらい徹底を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約書や重要事項説明書など不明点を尋ねながら理解、納得を得ている。また退去時についても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や担当者会議にて家族の意見を聞いたり面会時に意見を聞いている。問題があればカンファレンスにより討議し意見、要望を共有している	家族会を組織し、家族の意見をくみ取る取り組みを行っている。また、行事開催時には家族の参加勧めるだけでなく、取り入れて欲しい内容をアンケートで聞取るなど、家族が意見や要望を伝えやすい環境作りが行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のカンファレンスや全体勉強会で職員の意見を言える時間を取っている。また半年に一回は人事考課として三者面談を行い、お互いの意見や相談を聞く機会を設け検討し反映している。	定期的に行われるカンファレンスでは、介護計画等の見直しだけでなく、スタッフから施設の運営等についての意見を出してもらい業務改善に努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の勤務態度、実績等を把握し人事考課により賞与や給与に反映され、また職員との面談などにより働きやすい職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための法人、内外研修をはじめ、研修支援制度を取り入れた外部研修や法人内の毎月の勉強会における研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に三回は他事業所との発表会に参加し事例を聞いたりグループワークなどで意見交換や討議などで良いと思うものを皆で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用を開始する段階で管理者、主任、ケアマネージャー等で本人及び家族から不安要望を聞き必要とされる支援を把握して安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で管理者やケアマネージャーが家族と話し合い家族等が困っている事や不安なこと要望に耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内に居宅サービスで相談できる体制が出来ており、本人と家族の要望に応じた支援を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後片付け、自室の掃除等、個々の能力に応じて参加して頂き意欲の向上に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に3回の家族会を実施し、利用者と家族の交流を大切にしている。また毎月送付している園だよりに「ひとこと」コーナーを作り担当職員が本人の近況を家族に報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	クリーンデイやショッピングセンターの利用など地域との交流を多く持つようにしている。理容院などは地元へ足を運んだり、家族へお願いするよう支援している。	利用者がなじみのお店を利用できるように、買い物には利用者同伴で地域のお店へ出かけている。利用者がこれまで続けていた日常的なことを続けていくことができるように配慮されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を大切にし、食卓テーブルの配置やソファの位置に配慮する等、孤立がないよう職員が間に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ターミナルにて死亡され退所された方は盆参りや運営推進委員としての一員として意見をもらったり他の家族の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自ら意志を表現出来ない利用者については家族が過去の生活ぶりや好みを聞くなどして個別対応が出来るように努められている。また毎朝お茶の時間に希望を聞きそれを反映させている。	毎朝、利用者に今日は何をしたいか、何を食べたいかなどという事柄について伺い、一日の行動予定を立てられている。自ら意思表示が困難な利用者には、利用者の趣味、嗜好などに合わせた介護内容が提供されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族、友人、親族などから、これまでの生活歴や環境等の情報を収集すると共に日常の会話の中でも把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の動向、心身の状況の把握に努め毎朝の申し送りや個別ケース記録の観覧、またカンファレンスなどにより現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に本人、家族の要望を普段の生活や面会時に意見を取り入れて会議での職員との討議を経て入居者本位の計画作成に努めている。	介護計画は、3ヶ月に1回、職員全体で作成されている。また、本人の生活面だけではなく、医療面からの助言や家族からの要望を取り入れて作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の状態はパソコンに人力し、ケアプランにそったチェック表の記録を行っている。毎月のカンファレンスでも意見交換を行いながら情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の入居者の状況、要望に合わせて入浴は広い浴槽にはいつたり食事は個人の、状態に合わせた形態にしたり、食事の手伝いにより生きがい持つてもらおう為に心掛ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお坊さんに来ていただき、法話を聞いたり、千坊館へドライブに行き地域住民と交流を図っている。また、地域のクリーンデイにも参加をして協力を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人や家族の希望を重視して医療機関を決めている。また、訪問看護ケアとして、往診・点滴・注射に来てもらっており、ケア記録をスタッフ全体で取り組み、報告して医師との連携を図っている。	かかりつけ医については、これまで受診していた医療機関を継続して利用できるように支援されている。必要時には往診を受けることができる体制も整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケア記録をつけて取り組み、日常の些細な変化や気づきについては看護職に伝えて相談している。また、定期的に行っているカンファレンス・勉強会で問題が生じた都度に話し合いをして、情報交換をして取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をした際は、管理者が行き、病院関係者から状況説明を受けている。スタッフも、再三お見舞いに行き、病院スタッフとも馴染みになり、情報収集をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の面会時に、ターミナルケアを想定した話を早い段階から家族にできるように心がけており、家族の意向を常に、日頃から把握して、チームで支援に努めている。	重度化や看取りについての指針が設けられていて、医師の助言を得ながら、家族の意向を把握する体制が整備されている。対応方針を決定した後でも、家族の意向を細やかに確認しながらその対応がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急の対応については、全員が消防署にて毎年講習を受けて、実践力を見につける様に努めている。また、勉強会やカンファレンス・外部への研修を受けて技術や知識の向上を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもとに、年に2回以上の火災予防および夜間想定・避難訓練を利用者と共にスタッフ全員参加で行っている。また、地域住民の協力もあり、多くの方が火災訓練に参加をして下さった。	計画的に消防署立会いで防火訓練が実施されている。地域住民の協力を得た訓練も実施されていて、住民の協力も十分に得られている状況にある。水害等の災害についても、対応指針が整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねない様な言葉かけや対応には注意を払いながら対応している。勉強会にて接遇研修を実施し職員のレベル向上に努めている。また個人情報には事務所に管理を行い注意を払っている。	利用者の尊厳が守られた言葉かけや羞恥心等に配慮された介護が行われている。計画的な研修が行われていて、サービスの質の向上に取り組まれている。個人情報については、事務所において一元的な管理がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に聴く姿勢を心掛け、思いやりや希望を出しやすいコミュニケーション、環境づくりに努めているレクや行事には必ず希望を聞き、希望に添いながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝10時のお茶の時間に日程を説明し、一人一人の希望を聞き出来るだけ希望に添って支援している又3時のお茶の時間に入浴希望を聞き、希望に添いながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には、利用者と一緒に選び気に入った物を身につけてもらっている。又、定期的に地域の美容室に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方と一緒に季節の食べ物をテーブルにおき、希望の食材を聞き、準備や盛り付け、片付けを行っている。又、食べたい物を尋ね、食べられない物は味付けや調理、盛り付けを工夫し摂取して頂いている。	利用者とその日に食べたいものの希望を聞きメニューを決定している。食材の買い物から利用者が同伴、気軽に調理や後片付けに参加できるようにオープンキッチンのスタイルをとられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士作成の献立を参考に毎日の食事を提供している。季節に応じた食材を使用し、個人に合わせた形状(刻み・ミキサー食)で盛り付けしている。水分はボードに時間別に摂取量を記入している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きを促し、支援の必要な方には義歯の洗浄やうがいなどの介助を行っている。夜間は義歯を外して頂き、週に2回程、洗浄薬を使い清潔保持に努めている。又食前には健口体操の実施もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に排泄を促し、排泄チェック表に記入し利用者の排泄状態を把握する。その後トイレ誘導に役立てたりオムツの量の削減や自立支援に繋げています。	排泄チェック表で排泄状況が把握されている。利用者に合わせた排泄誘導や、できるだけおむつの使用を減らすための取組みが実践されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事を心掛けるとともに、乳製品や水分(お茶セリ、ジュースなど)を多く摂取して頂き、音リハや散歩など適度な運動を取り組んで排泄チェック表で便の状況を把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者が入浴を拒否される時は無理に入浴させず時間を置いて声かけ、清拭、足浴を行ったり次の日に回したりしています。また、入浴の際は利用者とのコミュニケーションをとり楽しく入浴して頂いています。	入浴は、自宅での生活に合わせた格好で午後(15:00~17:00)の時間帯で支援がなされている。入浴ができないときには、足浴を行うなど個別の対応が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に体操などしっかり運動して頂き安眠されるように努めている。利用者の体調に合わせて疲れていそうな時や食後など休みたいと訴えのある時は自室に誘導したりソファ、畳の上で休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は薬入れで仕分けして事務所に保管し誰がどんな薬を飲んでいるか看護チェック表で理解している。薬は利用者へ手渡し最後まで飲んで頂いてるかしっかり確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、食器拭きなど自分の役割を持って頂いています。月の行事や合同レクリエーション、歌の会など歌ったり体を動かす事で楽しみ、気分転換を行っています。食事でも利用者の思いに応え料理しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物やドライブなどの外出は利用者の希望により実施している。また外食などの計画を立て違う楽しみが出来るように取り組んでいます。地域の清掃活動や行事ごとに出向き地域の方々と交流を行っています。	毎日、利用者が職員同伴で食材の買い物に出かけている。午後からは利用者の希望を聞き、神社などへドライブに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物へ行き自分で歩ける方は職員と一緒に店内を見て回り何か買いたい物は無いですか？と声かけし買物されるよう促している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等書ける方は自分で書いて頂き職員が宛名を書いて出している。電話も職員が家族にお礼の電話をした際家族が代って欲しいと言われた時等本人に代わるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に花を飾ったり季節を感じてもらえるよう壁等に飾り付けをしたり等工夫をしている。また台所はオープンキッチンになっており利用者も使用しやすくなっている。また中庭より日光が入り日光浴ができる長椅子も四方に設置してある。	利用者の共有空間は、十分な広さがとられ、調度品も昔利用者が使っていたようなものがさりげなく配置されている。壁面の飾りなどは季節感を取り入れたものであり、華美でなく落ち着いた雰囲気をかもし出している。ウッドデッキからは四季折々の花などを楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の個室があり自由に出入りできるようになっている。ホールには畳みのスペースやソファが置いてあり、くつろいでテレビを見られたり、掘りごたつに入り利用者同士会話を楽しんでもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っておられたタンスや道具等、馴染みの物を部屋に置きそれまでの生活を継続して、居心地よく過ごして頂けるようにしている。	居室には、自宅で使っていたたんすや思い出の調度品が置かれていて、仏壇の持ち込みもある。利用者のこれまでの生活の継続性と居心地の良さに配慮された工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は車椅子が通る余裕があり手すりや座れるスペースが設置されている。台所もオープンキッチンになっていて安全面にも目を配れ利用者と一緒に調理等出来るようになっている。		